



## クジラはほ乳類なのに、なぜ海にいるの

### クジラの先祖が現れたのは数千万年前

地球にバクテリアのような生き物が現れたのは、およそ35億年前ごろです。その後、長い長い時間をかけて、少しずつ複雑で高度な生物が現れ、まわりの環境の変化や、生きる競争に負けた生物はほろびていきました。

クジラの先祖が現れたのは、およそ4000～5000万年前ごろです。このころは、恐竜が絶滅した後、は虫類の仲間にかわって、海、水中、地上に、ほ乳類が、ふえ広がりはじめていました。

クジラの先祖は、長い体と小さい頭をもち、前足はひれ足のようになり、後ろ足はほとんどなくなりかけていて、前につき出た鼻先に鼻のあながある体をしていました。

### クジラは海で生活することで生きのびた

そのころのクジラの先祖にとって、海の中の生活は、陸にいるよりも敵や競争相手が少ない、食物が手に入りやすい、子孫をふやすのに便利など、生きていくのに便利だったのでしょう。

そのため、陸を追われたものの中には、より海の中でくらしやすいものが現れ、体つきもだんだん変化していきました。鼻のあなは、水面からつき出して息ができるよう、完全に頭の上に移動し、前足はひれになり、横に水平に広がったしっぽをもつ、今のような体つきになったのでしょう。

数千万年も前から今まで、クジラがほろびずに、生きのびてきたのは、海で生活することを選び、それにあった体に進化してきたためといえます。（監修・今泉 忠明）

